

2重倒立振子モデルの作り方

平成15年6月20日

1 倒立振子系の諸元

- M : 台車の質量
- m_i : リンク i の全質量
- l_i : リンク i の長さの半分
- J_i : リンク i の重心回りの慣性モーメント
- x : 台車の位置
- θ_i : リンク i の角度 (平衡位置を 0 とする)
- F : 台車に加わる力 (x 方向を正とする)

リンク (棒のこと) の添字 i は, 台車に接続されている下部のリンクを $i=1$, 上部のリンクを $i=2$ とする.

2 Lagrange 法による運動方程式の導出

2重倒立振子の運動方程式を導出するために, ニュートンの第2法則を適用することもできる. しかしここでは, 導出過程の見通しをよくするために, Lagrange 方程式を用いることにする.

具体的には, 系の運動エネルギー T と, ポテンシャルエネルギー V を求め, これらをつぎの Lagrange 方程式に代入することにより, 系の運動方程式を得ることができる.

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial T}{\partial \dot{x}_i} \right) - \frac{\partial T}{\partial x_i} + \frac{\partial V}{\partial x_i} = F_i, \quad (i = 1, 2, \dots, n) \quad (1)$$

ただし, x_i は一般化座標, \dot{x}_i はその時間微分 (一般化速度, 速度や角速度) である. また, F_i は, 系の外から加わる x_i 方向成分の一般化力 (力やトルク) である. n は系の自由度である.

詳細な説明を省くが, 2重倒立振子の場合には, 一般化座標および一般化力をつぎのように選ぶことができる:

$$x_1 = x \quad (2)$$

$$x_2 = \theta_1 \quad (3)$$

$$x_3 = \theta_2 \quad (4)$$

$$F_1 = F \quad (5)$$

$$F_2 = 0 \quad (6)$$

$$F_3 = 0 \quad (7)$$

これより Lagrange の方程式 (1) はつぎのように書ける:

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial T}{\partial \dot{x}} \right) - \frac{\partial T}{\partial x} + \frac{\partial V}{\partial x} = F \quad (8)$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial T}{\partial \dot{\theta}_1} \right) - \frac{\partial T}{\partial \theta_1} + \frac{\partial V}{\partial \theta_1} = 0 \quad (9)$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial T}{\partial \dot{\theta}_2} \right) - \frac{\partial T}{\partial \theta_2} + \frac{\partial V}{\partial \theta_2} = 0 \quad (10)$$

2.1 運動エネルギー

まず、系の運動エネルギー T を求める。

$$T = \frac{1}{2}M\dot{x}^2 + \frac{1}{2}m_1(\dot{x}_{c1}^2 + \dot{y}_{c1}^2) + \frac{1}{2}m_2(\dot{x}_{c2}^2 + \dot{y}_{c2}^2) + \frac{1}{2}J_1\dot{\theta}_1^2 + \frac{1}{2}J_2\dot{\theta}_2^2 \quad (11)$$

上式右辺第一項目から順に、台車の運動エネルギー、リンク 1 の並進運動エネルギー、リンク 2 の並進運動エネルギー、リンク 1 の回転運動エネルギー、リンク 2 の回転運動エネルギー、である。ただし、 $\dot{x}_{c1}, \dot{y}_{c1}$ は、それぞれリンク 1 の重心の x, y 方向の移動速度である。同様に、 $\dot{x}_{c2}, \dot{y}_{c2}$ はリンク 2 の移動速度である。これらは、以下のように求まる。

リンク 1 の重心位置 (x_{c1}, y_{c1}) とその導関数：

$$x_{c1} = x + l_1 \sin \theta_1 \quad (12)$$

$$y_{c1} = l_1 \cos \theta_1 \quad (13)$$

$$\dot{x}_{c1} = \dot{x} + l_1 \cos \theta_1 \dot{\theta}_1 \quad (14)$$

$$\dot{y}_{c1} = -l_1 \sin \theta_1 \dot{\theta}_1 \quad (15)$$

リンク 2 の重心位置 (x_{c2}, y_{c2}) とその導関数：

$$x_{c2} = x + 2l_1 \sin \theta_1 + l_2 \sin \theta_2 \quad (16)$$

$$y_{c2} = 2l_1 \cos \theta_1 + l_2 \cos \theta_2 \quad (17)$$

$$\dot{x}_{c2} = \dot{x} + 2l_1 \cos \theta_1 \dot{\theta}_1 + l_2 \cos \theta_2 \dot{\theta}_2 \quad (18)$$

$$\dot{y}_{c2} = -2l_1 \sin \theta_1 \dot{\theta}_1 - l_2 \sin \theta_2 \dot{\theta}_2 \quad (19)$$

これらを式 (11) に代入して整理すると、つぎの式を得る。

$$\begin{aligned} T = & \frac{1}{2}(M + m_1 + m_2)\dot{x}^2 + \frac{1}{2}((m_1 + 4m_2)l_1^2 + J_1)\dot{\theta}_1^2 + (m_1 + 2m_2)l_1\dot{x}\dot{\theta}_1 \cos \theta_1 \\ & + m_2l_2\dot{x}\dot{\theta}_2 \cos \theta_2 + 2m_2l_1l_2\dot{\theta}_1\dot{\theta}_2 \cos(\theta_1 - \theta_2) + \frac{1}{2}(m_2l_2^2 + J_2)\dot{\theta}_2^2 \end{aligned} \quad (20)$$

2.2 ポテンシャルエネルギー

リンクが水平に倒れた場合 ($\theta_1 = \theta_2 = \frac{\pi}{2}$) に、ポテンシャルエネルギー (位置エネルギー) V が 0 となると考えると、

$$V = m_1gl_1 \cos \theta_1 + m_2g(2l_1 \cos \theta_1 + l_2 \cos \theta_2) \quad (21)$$

右辺第一項は、リンク 1 のポテンシャルエネルギー、第二項は、リンク 2 のポテンシャルエネルギーである。

以上で求めた T, V を、式 (8), 式 (9), 式 (10) に代入し、系の運動方程式を導出する。

2.3 式 (8)

について

$$\frac{\partial T}{\partial \dot{x}} = (M + m_1 + m_2)\dot{x} + (m_1 + 2m_2)l_1\dot{\theta}_1 \cos \theta_1 + m_2l_2\dot{\theta}_2 \cos \theta_2 \quad (22)$$

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial T}{\partial \dot{x}} \right) = (M + m_1 + m_2)\ddot{x} + (m_1 + 2m_2)l_1(\ddot{\theta}_1 \cos \theta_1 - \dot{\theta}_1^2 \sin \theta_1) + m_2l_2(\ddot{\theta}_2 \cos \theta_2 - \dot{\theta}_2^2 \sin \theta_2) \quad (23)$$

$$\frac{\partial T}{\partial x} = 0 \quad (24)$$

$$\frac{\partial V}{\partial x} = 0 \quad (25)$$

これより、次式を得る。

$$(M + m_1 + m_2)\ddot{x} + (m_1 + 2m_2)l_1(\ddot{\theta}_1 \cos \theta_1 - \dot{\theta}_1^2 \sin \theta_1) + m_2l_2(\ddot{\theta}_2 \cos \theta_2 - \dot{\theta}_2^2 \sin \theta_2) = F \quad (26)$$

2.4 式 (9) について

$$\frac{\partial T}{\partial \dot{\theta}_1} = ((m_1 + 4m_2)l_1^2 + J_1)\dot{\theta}_1 + (m_1 + 2m_2)l_1\dot{x} \cos \theta_1 + 2m_2l_1l_2\dot{\theta}_2 \cos(\theta_1 - \theta_2) \quad (27)$$

$$\begin{aligned} \frac{d}{dt} \left(\frac{\partial T}{\partial \dot{\theta}_1} \right) &= ((m_1 + 4m_2)l_1^2 + J_1)\ddot{\theta}_1 + (m_1 + 2m_2)l_1(\ddot{x} \cos \theta_1 - \dot{x}\dot{\theta}_1 \sin \theta_1) \\ &+ 2m_2l_1l_2(\ddot{\theta}_2 \cos(\theta_1 - \theta_2) - \dot{\theta}_2(\dot{\theta}_1 - \dot{\theta}_2) \sin(\theta_1 - \theta_2)) \end{aligned} \quad (28)$$

$$\frac{\partial T}{\partial \theta_1} = -(m_1 + 2m_2)l_1\dot{x}\dot{\theta}_1 \sin \theta_1 - 2m_2l_1l_2\dot{\theta}_1\dot{\theta}_2 \sin(\theta_1 - \theta_2) \quad (29)$$

$$\frac{\partial V}{\partial \theta_1} = -m_1gl_1 \sin \theta_1 - 2m_2gl_1 \sin \theta_1 \quad (30)$$

これより, 次式を得る.

$$\begin{aligned} ((m_1 + 4m_2)l_1^2 + J_1)\ddot{\theta}_1 + (m_1 + 2m_2)l_1\ddot{x} \cos \theta_1 + 2m_2l_1l_2(\ddot{\theta}_2 \cos(\theta_1 - \theta_2) + \dot{\theta}_2^2 \sin(\theta_1 - \theta_2)) \\ - (m_1 + 2m_2)gl_1 \sin \theta_1 = 0 \end{aligned} \quad (31)$$

2.5 式 (10) について

$$\frac{\partial T}{\partial \dot{\theta}_2} = m_2l_2\dot{x} \cos \theta_2 + 2m_2l_1l_2\dot{\theta}_1 \cos(\theta_1 - \theta_2) + (m_2l_2^2 + J_2)\dot{\theta}_2 \quad (32)$$

$$\begin{aligned} \frac{d}{dt} \left(\frac{\partial T}{\partial \dot{\theta}_2} \right) &= m_2l_2(\ddot{x} \cos \theta_2 - \dot{x}\dot{\theta}_2 \sin \theta_2) + 2m_2l_1l_2(\ddot{\theta}_1 \cos(\theta_1 - \theta_2) - \dot{\theta}_1(\dot{\theta}_1 - \dot{\theta}_2) \sin(\theta_1 - \theta_2)) \\ &+ (m_2l_2^2 + J_2)\ddot{\theta}_2 \end{aligned} \quad (33)$$

$$\frac{\partial T}{\partial \theta_2} = -m_2l_2\dot{x}\dot{\theta}_2 \sin \theta_2 + 2m_2l_1l_2\dot{\theta}_1\dot{\theta}_2 \sin(\theta_1 - \theta_2) \quad (34)$$

$$\frac{\partial V}{\partial \theta_2} = -m_2gl_2 \sin \theta_2 \quad (35)$$

これより次式を得る.

$$m_2l_2\ddot{x} \cos \theta_2 + 2m_2l_1l_2(\ddot{\theta}_1 \cos(\theta_1 - \theta_2) - \dot{\theta}_1^2 \sin(\theta_1 - \theta_2)) + (m_2l_2^2 + J_2)\ddot{\theta}_2 - m_2gl_2 \sin \theta_2 = 0 \quad (36)$$

式 (26), 式 (31), 式 (36) をまとめて, 系の運動方程式が次のように得られる.

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} M + m_1 + m_2 & (m_1 + 2m_2)l_1 \cos \theta_1 & m_2l_2 \cos \theta_2 \\ (m_1 + 2m_2)l_1 \cos \theta_1 & (m_1 + 4m_2)l_1^2 + J_1 & 2m_2l_1l_2 \cos(\theta_1 - \theta_2) \\ m_2l_2 \cos \theta_2 & 2m_2l_1l_2 \cos(\theta_1 - \theta_2) & m_2l_2^2 + J_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \ddot{x} \\ \ddot{\theta}_1 \\ \ddot{\theta}_2 \end{bmatrix} \\ = \begin{bmatrix} F + (m_1 + 2m_2)l_1\dot{\theta}_1^2 \sin \theta_1 + m_2l_2\dot{\theta}_2^2 \sin \theta_2 \\ (m_1 + 2m_2)gl_1 \sin \theta_1 - 2m_2l_1l_2\dot{\theta}_2^2 \sin(\theta_1 - \theta_2) \\ m_2gl_2 \sin \theta_2 + 2m_2l_1l_2\dot{\theta}_1^2 \sin(\theta_1 - \theta_2) \end{bmatrix} \end{aligned} \quad (37)$$

2.6 線形モデルの導出

(37) 式の連立微分方程式には, $\cos \theta_1, \dot{\theta}_1^2$ 等の, 非線形項 ($\theta_1, \dot{\theta}$ 等について線形でない項) が含まれており, このままでは, 制御系の安定性を解析したり, 補償器の設計を行うことは困難である. そこで, 適当な条件のもとで, (37) 式を線形化する.

倒立振り子を制御する目的は, 振り子を倒立させること, すなわち, 振り子の角度および角速度を, 平衡点

$$\theta_1 = 0, \quad \theta_2 = 0, \quad \dot{\theta}_1 = 0, \quad \dot{\theta}_2 = 0$$

に近付けることである。制御がうまくいっている場合には、振子は平衡点の近傍で運動するはずなので、平衡点まわりで (37) 式を十分な精度で近似しておけば、制御用モデルとして使うことができそうである。そこで、 $\theta_1, \theta_2, \dot{\theta}_1, \dot{\theta}_2$ が上記平衡点近傍にあると仮定して、(37) 式を線形近似すると次式を得る。

$$\begin{bmatrix} M + m_1 + m_2 & (m_1 + 2m_2)l_1 & m_2l_2 \\ (m_1 + 2m_2)l_1 & (m_1 + 4m_2)l_1^2 + J_1 & 2m_2l_1l_2 \\ m_2l_2 & 2m_2l_1l_2 & m_2l_2^2 + J_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \ddot{x} \\ \ddot{\theta}_1 \\ \ddot{\theta}_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} F \\ (m_1 + 2m_2)gl_1\theta_1 \\ m_2gl_2\theta_2 \end{bmatrix} \quad (38)$$

ここで、以降の導出を簡単にするために、上式を次のように表すことにする。

$$M_0\ddot{z} = A_0z + B_0F \quad (39)$$

ただし、

$$\begin{aligned} M_0 &:= \begin{bmatrix} M + m_1 + m_2 & (m_1 + 2m_2)l_1 & m_2l_2 \\ (m_1 + 2m_2)l_1 & (m_1 + 4m_2)l_1^2 + J_1 & 2m_2l_1l_2 \\ m_2l_2 & 2m_2l_1l_2 & m_2l_2^2 + J_2 \end{bmatrix}, \\ A_0 &:= \begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & (m_1 + 2m_2)gl_1 & 0 \\ 0 & 0 & m_2gl_2 \end{bmatrix}, \quad B_0 := \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad z := \begin{bmatrix} x \\ \theta_1 \\ \theta_2 \end{bmatrix} \end{aligned} \quad (40)$$

である。

2 階の微分方程式 (38) を 1 階に直すのは、行列のサイズを拡大 (2 倍) にするだけで簡単にできて、

$$\begin{bmatrix} \dot{z} \\ \ddot{z} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 & I \\ M_0^{-1}A_0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} z \\ \dot{z} \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 0 \\ M_0^{-1}B_0 \end{bmatrix} F \quad (41)$$

となる。

以上で、倒立振子の運動方程式が一階線形連立微分方程式の形で求まった。